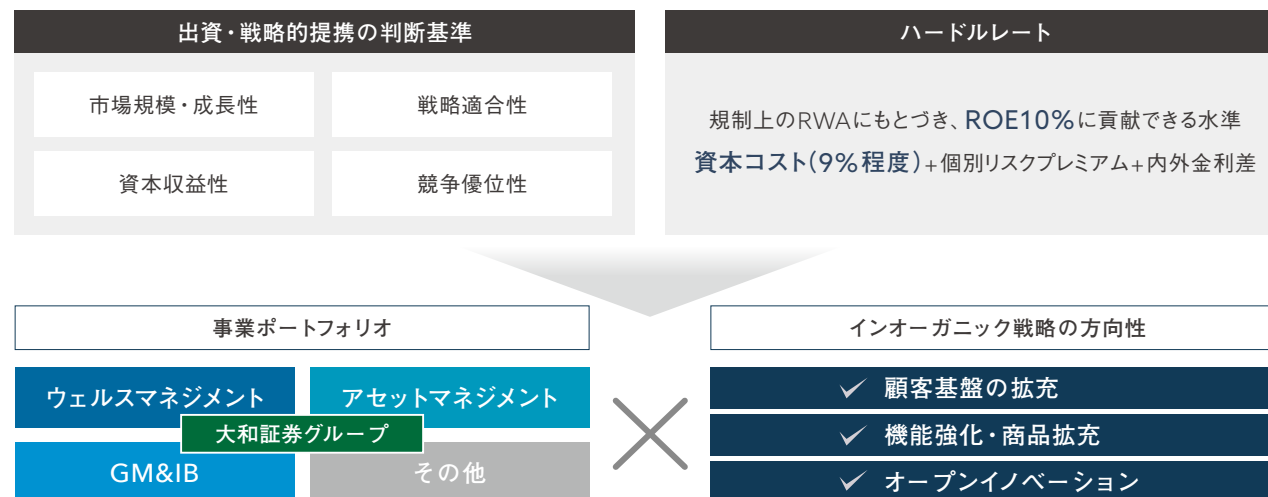


非連続な成長戦略の推進(外部連携・M&A・成長投資)

当社グループは、事業ポートフォリオ全体の健全な多様性を維持しつつ、各部門での既存ビジネスの着実な成長に加え、戦略的な投資や外部との提携などを通じた、いわゆるインオーガニックな成長も積極的に追求していきます。オーガニックとインオーガニックを取組みの両輪とすることで、持続的なROEの向上を目指します。

出資・戦略的提携の基本方針

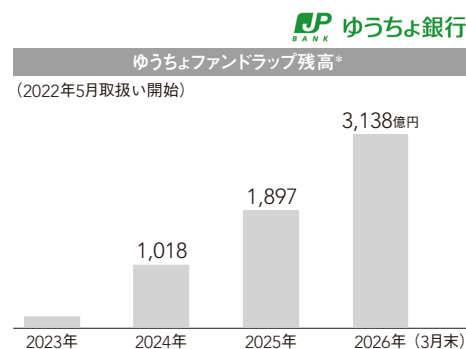
グループとしての持続的な成長を目指すうえで、余剰資本を活用した成長投資は欠かせない要素です。成長投資については、国内外企業への出資や提携などの有望な成長機会を捉えるべく、「顧客基盤拡充」、「機能強化・商品拡充」、「オープンイノベーション」といった領域を常に検討しています。こうした取組みを通じて、収益力の向上、事業ポートフォリオの強化、およびそれに伴うガバナンス・管理体制の高度化を引き続き推進していきます。



主要連携先との協業状況

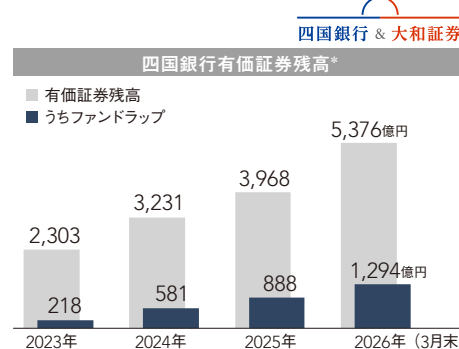
当社グループの証券ビジネスにおける知見・経験・プラットフォームを、外部連携先との協業に活用し、提携先のお客様への有価証券投資サービスを提供しています。

日本郵政グループとの協業



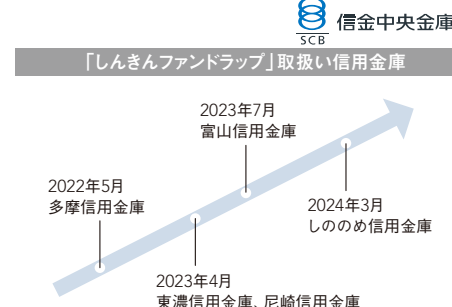
* ゆうちょ銀行 2026年3月期 決算説明資料より

四国銀行との包括的業務提携

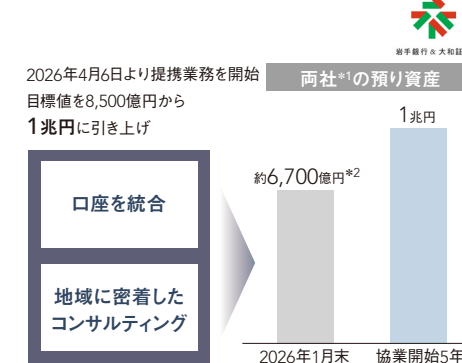


* 四国銀行 2026年3月期 決算短信より

信金中央金庫との提携



岩手銀行との包括的業務提携



*1 岩手銀行と大和証券盛岡支店 *2 保険を含む

非連続な成長戦略の推進（外部連携・M&A・成長投資）

あおぞら銀行との協業状況

法人本部・GIB本部を中心とする各部門において、相互のソリューションの活用やお客様の紹介が幅広く進み、提携効果が着実に発現しています。あおぞら銀行の融資機能・信託機能などを活用することで、引受け・M&Aアドバイザーなどの投資銀行業務における提案の高度化・多様化が図られています。また、大和証券は、あおぞら銀行の個人のお客様に対し、ファンドラップ「あおぞらみらい彩りラップ」を提供しています。

法人向けソリューションの高度化・多様化

GM&IB

- ✓ 両社協働でのLBO提案を通じた独自ソリューションの提供を推進
- ✓ 短期資金の調達多様化に対応し、両社協働の調達スキームの実行・拡大
- ✓ コーポレートファイナンス、成長企業支援、不動産領域で投融资実績が拡大

AM

- ✓ 再生可能エネルギー領域のプロジェクトファイナンスにおける協働を開始
- ✓ 両社の共同投資による「大和・あおぞらチャレンジファンド」を通じたディール・ソーシングを継続

個人向けビジネスも着実に実績を積み上げ

WM

- ✓ 2025年10月にあおぞら銀行でファンドラップの販売開始
- ✓ ファンドラップ残高は、計画を大幅に上回る674億円(2026年3月末時点)となり、2026年度は残高約1,000億円を計画

提携効果

	2025年3月末	2026年3月末
紹介に同意した顧客数*1	450社	970社
累計投融资実行額*2	390億円	2,860億円
あおぞら銀行業務純益	n.a.	+35億円

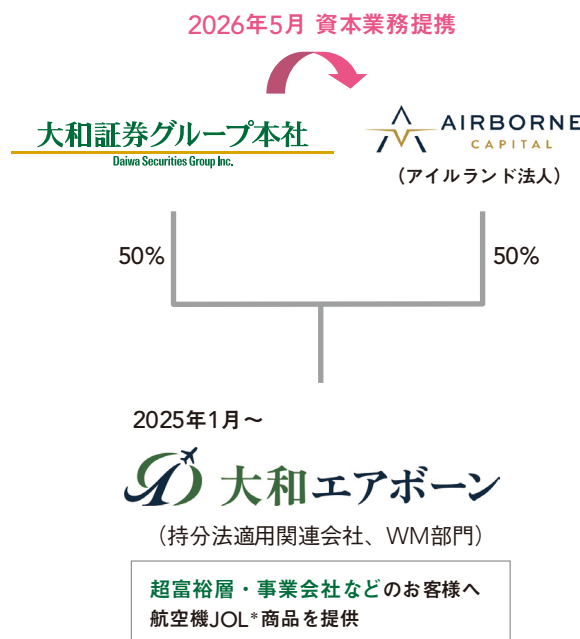
*1 2024年度以降の情報共有同意書の取得件数(累計)

*2 2024年度以降の累計。返済などは考慮しない

Airborne Capital Limitedとの資本業務提携

2026年5月20日、当社グループは、大和エアボーンとの共同株主であるAirborne Capitalへの出資を発表しました。Airborne Capitalは、航空機リースおよび投資分野において高い専門性と実績を有しているため、同社との連携強化により、日本の航空機投資機会の裾野を広げ、市場の成長を取り込むことが狙いです。また、Airborne Capitalとは、日本初のオープンエンド型航空機ファンドにおいても提携しています。機関投資家に対して新たな投資機会を提供するとともに、オルタナティブ領域における

Airborne Capital Limitedとの連携強化による航空機投資市場の成長取り込み



* Japanese Operating Leaseの略

アセットマネジメントビジネスのさらなる成長を実現し、当社グループの収益機会の拡大につなげていきます。

会社名	Airborne Capital Limited
株主構成	Airway Partnership LLP(90%) 大和証券グループ本社(10%) ⇒ 将来的に20%の権利
会社特長	◆世界有数の航空機アセットマネジメント専門企業 ◆航空会社、航空機メーカー、金融機関など出身の専門家集団
出資意義	◆日本における航空機投資機会の提供強化 ◆航空機投資市場の成長取り込み

日本初オープンエンド型航空機ファンド「マッハOE」
目指す資産規模 ▶ 1,500億円

航空機投資機会
の裾野拡大

日本投資家に
魅力的な商品

証券AMの
運用力高度化

AIRBORNE CAPITAL

MERCURIA INVESTMENT

3社による戦略的業務提携

大和かんぽオルタナティブインベストメンツ

Daiwa JPI Alternative Investments

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

機関投資家のお客様へオープンエンド型
航空機ファンドを提供

非連続な成長戦略の推進（外部連携・M&A・成長投資）

オリックス銀行の子会社化

2026年4月27日、当社グループは、オリックス銀行の子会社化について発表しました。本件の目的は、ウェルスマネジメント部門の強化を通じた、安定収益の持続的拡大とROEの向上です。

取引概要

100%子会社化*1

大和ネクスト銀行がオリックス銀行の発行済株式をすべて取得

取得株式数	1,200,000株
議決権比率	100%

取得価額*2

3,700億円

取得資金は全額自己資金

- ・取得資金は自己資金を充当予定
- ・資本バッファの戦略的活用であり、財務健全性は堅持

*1 将来的に両行の合併を想定

*2 最終的な取得価格は、株式譲渡契約に定める価格調整などを経て決定

買収に伴い想定するポジティブ効果*1

資本バッファを戦略的に活用した連結ROEの非連続な向上効果

買収初年度 (年換算)	純利益：+120～140億円 ROE*2：+0.7～0.8%
2030年度	純利益：+365～435億円 ROE*2：+2.1～2.6%

証券ビジネスへの波及効果など

子会社化の目的

大和証券グループとオリックス銀行は、双方の強みと課題が相互に補完し合う、理想的な組み合わせです。大和証券グループの強固な顧客基盤、営業基盤を背景とした預金獲得力と、オリックス銀行が培ってきた卓越した融資・信託機能を融合することで、お客様の資産・負債、両面にわたる課題への対応力を高めます。

お客様のライフステージによって、資産と負債のバランスは変化します。当社グループは、オリックス銀行の融資・信託機能を活用し、資産だけではなく負債も含めて、お客様のバランスシート全体を最適設計する総資産コンサルティングを提供します。これにより、お客様一人ひとりのライフステージに応じた課題解決力を一層高めていきます。

- ・オリックス銀行による増益効果：200億円（オリックス銀行の過去5年平均の純利益）
- ・資金収支向上による純利益向上：2030年度245～295億円*3
- ・のれん償却費の仮試算：約▲60億円／年～▲80億円／年（償却年数が15～20年の場合）

*1 シナジー効果の試算においては、発行時期・金額未定である永久劣後債発行に伴う金利費用、および資金収支の改善以外の効果（たとえば、融資・信託機能強化による証券ビジネスへの波及効果や二行合併に伴うコストシナジーなど）は考慮せず

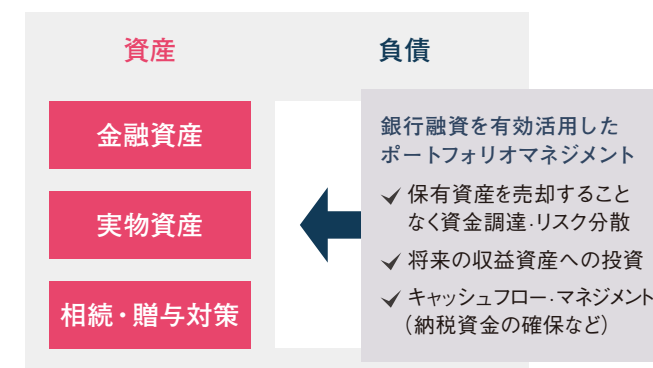
*2 2026年3月期平均自己資本をベースに算出

*3 3.5兆円超の運用（次ページ参照）により、仮に営業経費・与信費用控除後で1%～1.2%の資金収支を確保できた場合の増益ポテンシャル

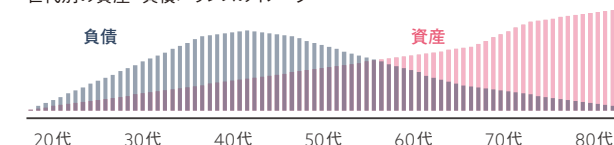
強みと課題が相互に補完し合う理想的な組み合わせ



お客様の資産と負債のバランスシートを最適設計



世代別の資産・負債バランスのイメージ



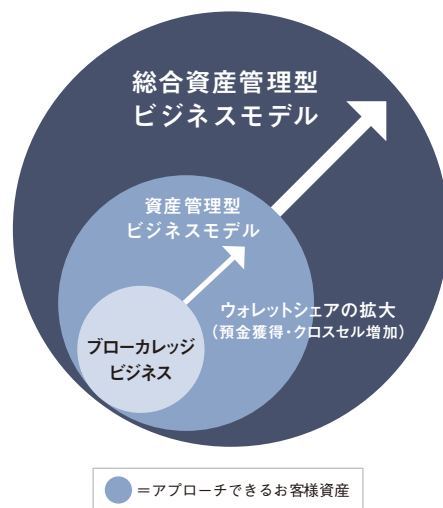
非連続な成長戦略の推進（外部連携・M&A・成長投資）

総合資産管理型ビジネスモデルへの深化

オリックス銀行の買収を通じて、当社グループのアプローチ領域は、金融資産全体に加え、不動産、財産・事業承継、さらには融資へと大きく拡張されます。特に、銀行融資を有効に活用することで、ポートフォリオに偏りがある富裕層のお客様に対しても、保有資産を売却することなく資金調達やリスク分散を実現することが可能となります。また、将来の収益資産への投資や納税資金の確保など、キャッシュフロー・マネジメントの高度化にも対応できるようになります。

銀行機能強化によるビジネス拡大

ウェルスマネジメントビジネスの成長ポテンシャルは飛躍的に拡大



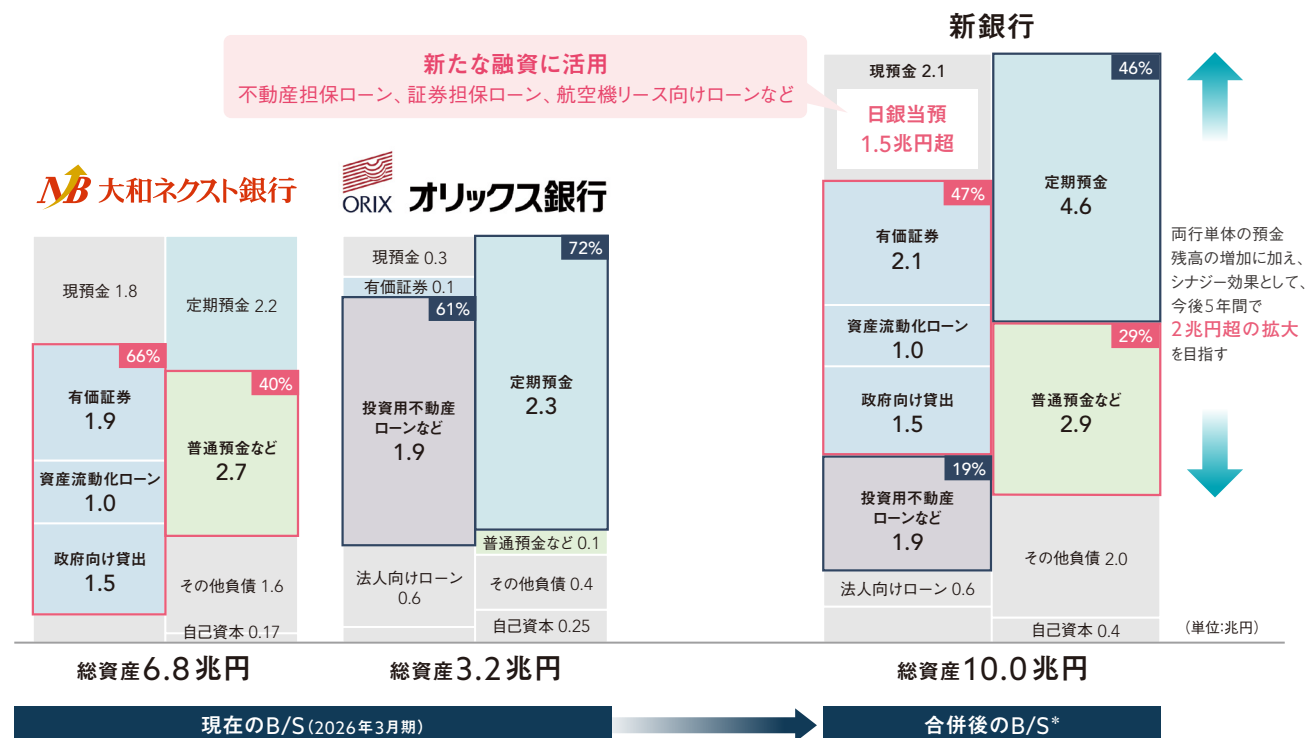
当社グループはこれまで、ブローカレッジ中心のビジネスから、資産管理型ビジネスモデルへの転換を業界に先駆けて推進してきました。オリックス銀行の子会社化により、アプローチ対象がお客様の資産全体へと広がり、負債サイドまで一体でカバーすることが可能となります。これにより、当社グループは資産管理型ビジネスモデルをさらに深化させ、総合資産管理型ビジネスモデルへと進化し、ウェルスマネジメントビジネスの成長ポテンシャルは飛躍的に拡大すると考えています。

最大のシナジーを生み出すベストな融合

大和ネクスト銀行とオリックス銀行の統合により、融資と有価証券、普通預金と定期預金が適切に分散された強固なバランスシートを実現します。

大和ネクスト銀行が有する1.5兆円超の余資に加え、競争力のある預金金利の提供などを通じて、今後5年間で2兆円超の預金残高の積み上げを目指します。これらを合わせた3.5兆円超の資金を、資本効率の高い不動産担保ローンや証券担保ローンなどで運用し、資金収支の向上を図ります。

両行の統合により強固なバランスシートを実現



* 単純合算ベース